

無料のタウン誌です。ご自由にどうぞ

2023年冬・75号

信条・世に媚びず・枠にとらわれず
・言いたいことはハッキリ言おう

発行/吉田 進
携帯 090-3168-1063
FAX 072-863-0605
〒110-0015
東京都台東区東上野 3-26-10 FC204号

URL : <https://lifecrossing.ne.jp/>
E-mail : info@lifecrossing.ne.jp

Life Crossing

人生・生活・命の交差点/季刊(創刊2001年)

CONTENTS

世の中・社会・文明・歴史・家族・
自分のことを書いています。

理性と感性

北里大学名誉教授 馬淵 清資…2

イスラエルVSハマス

イスラエルは医療施設を攻撃、病人まで殺す
皆殺し戦に双方は直ちに「停戦」への途を探れ

吉田 進…3

沖縄先島諸島訪問記(その1)

下町の法律事務所弁護士 柴原 周成…4

関東大震災百年追悼映画

「福田村」事件に思うこと

グラデーションの中で物事を捉える

東 郁夫…5

中国からの投稿

「海洋汚染」から考えた

中国 河北省(ペンネーム)黄 華 雲…6

福井県恐竜博物館を訪ねて

48億年前の地球の姿

三田 栄考…7

「食」を考えれば

健康、安保、環境が見える

東京 江東区 岡山 暁生…8/9

第7回 宇宙生命哲学者大いに語る

数学という学問の位置付け

北里環境科学センター名誉顧問 伊藤 俊洋…10

やったぞ!

阪神 リーグ優勝から日本一へ

陰で悲哀をかこつ選手がいる

大阪府中央区 原野 通有…11

第22回プロミスエッセイ大賞作品

「恩送り」の約束

新潟県三条市 梅田 純子…12

(麻雀)Mリーグをご存じですか?(下)

推しチームについて

東京 品川 大山 桜…13

松平春嶽(下) 橋本左内

東京 阿部 敏夫…14

風呂にまつわる話

野口 文子…15

余録/編集後記……………15

「フェイクニュース」

前参議院議員 森 ゆうこ…16



「版画：森の不安——迫りくる破壊」

熊が出没して人間界は被害を受ける。自然破壊、温暖化によって森の中の食べ物が減って人里に現れるのだろう。大昔から人々は自然と動物・生き物と共生していた。が、近代になってからどんどん浸蝕始めて限りある資源をあっという間に食い尽くそうとしている(長野県小諸市・矢島 慎吾)

理性と感性

北里大学名誉教授 馬淵 清資

神宮の森の伐採計画に反対する動きが活発である。巨額の富を生む経済活動に異を唱える理由は、イコモスの指摘のように、環境保全が、人類にとって重要だからである。

一方、都心の一等地で、何の役にも立たない樹木より、マンションでも建てた方が、世のため、ヒトのためになる。身の回りの木や草を少々削ったところで、地球環境にたいした影響はなさそうだ。そうした言い訳を重ねることで、経済活動が優先され、大切な自然が破壊されて行くことが多い。

当事者の損得勘定は、理性によって見積もられるので、その破壊を防ぐには、その利益を上回る動機付けが必要である。しかし、残念ながら、自然環境を保護しても、当事者に利益がもたらされるのは、一部の観光地ぐらいである。

それでも、樹木を伐採する時、現場の担当者は、罪悪感

を抱く。そこには、理性ではなく、感性が作用している。自然を形作っているのは、



ブリュージュ (Bruges) の町並み

草や木などの植物はもちろん、野生の鳥獣や虫たちである。森や林を切り開いて、建造物や道路に置き換えると、すべての生きとし生けるものが、根絶やしになる。その殺風景な映像を見ると、我々の心は、殺伐となる。健全な感性の持ち主は、それを嫌がる。都会のビル街に、一本の街路樹があるだけで雰囲気がガラリと変わる。それで、不動

産広告の場合、建造物の周囲に必ず樹木を配置する。

ベルギーのブルージュを訪れたことがある。街のすべてが、きれいに整っていて、世界遺産にふさわしい風景が広がっていた。ただ、街路樹は、ほとんどなく、殺風景だった。

一方、日本の名勝の周りには、必ず樹木が配されている。その効果は、目覚ましく、我々は、そういう言わば和風の風景に魅力を感じる。外国の観光客が、京都や奈良に押しかけているのを見ると、和風の風景の魅力は、万国共通のようだ。

こうした視覚から来る映像を称賛する際、我々は、「美しい」と表現する。この美しいと感じる感覚は、人類だけでなく、全ての生物に共通のようである。美しい花、美しい鳥、美しい蝶などの「美しさ」は、本来、仲間にアピールする手段のほずだ。人間だけが、美しさという感性を独占しているわけではない。

感性に従う行動は、だいたいは、生存戦略に沿っている。たとえば、恋愛感情は、種の存続に必要だし、恐怖の感情は、間違いなく自己防衛に役立つ。

では、美醜についての感性は、何のために存在するのか。そのヒントは、生は、死より美しいという事実にある。絶世の美女でも、死んだら醜い屍になってしまう。

生命は、生物組織（動物の肉体、植物の根、茎、葉）の機能を統合するシステム（ソフトウェア）である。それが失われると、生物組織が、無秩序な瓦礫の山になる。

身近な自然の中から生命の彩りが失われると、その風景から、美しさが失われる。つまり、美しさは、生命の息吹



京都大原三千院

を愛でる心に光を照らす。それは、他の生命を尊重する光でもある。

明治時代の物理学者、寺田寅彦博士は、エッセイ「糸車」の中で、「田園の自然の

間に育ったというなんの誇りにもならないことが、世にも仕合わせな運命であったかのような気もしてくるのである。」と述べている。これは、まさしく寺田氏の感性がもたらした述懐であり、寺田氏の崇高な理性に由来するものではない。

私は、子供の頃、山間の溪流を遮るダムに、謎の嫌悪感を抱いていた。今は、その理由がわかる。豊かな生命を育んでいたはずの山の斜面に、生命の失われた世界が広がっていることに対する嫌悪感だった。

生命の歴史の中では新参者の「理性」より、「感性」の方が、はるかに先輩で、より深く、より上位に位置する機能である。そして、我々の感性の中には、生命尊重の価値観が、組み込まれている。それを虚心に見直して、うわべの利益を追う浅薄な理性の暴走を止めることが、我々の未来を救うはずである。

ちなみに、近頃はやりのAI（人工知能）には、理性の機能（大脳の機能）を拡大する能力しかない。感性という名の遺伝子の機能に関わるには、AIは、あまりにも非力で力不足である。

イスラエルは医療施設を攻撃、病人まで殺す 皆殺し戦に双方は直ちに「停戦」への途を探れ

吉田 進

「国取合戦」で奪った地は返せ

地球温暖化の人災は、各国が一つにならんと解決できない。それなのに各国は火の弾を飛ばし、人を殺して地熱をあげる。世は「国取合戦」の歴史。戦いすんで日が暮れたら、「奪った地を元へ返せ」が平和への第一歩と思う。

イスラエルVSパレスチナ・ガザでは、武力に勝るイ軍が無防備の子どもや市民を殺し、その上、病院や救急車を空爆している。

そんな悪魔の攻撃を止めさせることは出来ないのか。しかしハマスのイスラエル無差別攻撃は容認できない。バイデン米大統領は、イスラエルのネタニヤフ首相に「がんばれ」とエールを送り、国連でのイ軍のガザ攻撃の「即時かつ持続的な人道的休戦」に拒否権行使で反対した。これも容認できない。

<NHK 11.12放映>
国連安保理でWHOテドロス事務局長



もともとパレスチナのユダヤ王国は、戦に敗れ流浪の民となつて世界各地へ散つた。のち各列強国はユダヤ組織からカネをもらつて国連を動かして、「パ地の57%」をユダヤ地と定めた。

以来、アラブ各国は、中東戦争で反撃するも敗れ、アメリカの仲介で1993年の「オスロ和平条約」でパレスチナはヨルダン川西岸地区とガザ地区と定め、パレスチナの地を奪った。

ガザ地区は「天井のない監獄」と言われる「動物奴隷国」だ。その食糧や生活必需品もエジプトからで、しかも銃を持った監視所を通じて配られている。「何たるこつちや」と、漱石の「草枕」の前文を読み返した。

酒を飲みながらこう考えた。と世は人殺しの戦争ばかりで住みにくい。人の世を作ったのは神で

もなければ鬼でもない。矢張り三軒両隣にちらちらするただの人だ。ただの人が作った人の世が住みにくいからとて、殺す国はない。あれば人でないの国だ。酒が切れ、ブーチンとネタニヤフの金棒を持った顔が浮かんだ。心は顔に投影される。よく似てる。そう思いつつ、テロリストと言われるハマスは、ひよつとしたら「奴隷解放集団」？と思いつつ、でも無差別の人殺しはアカンと揺れた。



増で行うというが、その実施時期は未定だ。で、政策課題は「検討する」の繰り返しで、彼は「検討使」と揶揄されていると書く。

労組ナショナルセンターの「連合」へ国民民主党の玉木代表も「賃上げ、賃上げ、賃上げ」を連呼するが、彼を支える大手企業の「組合員の40%は、自民党へ投票する」とか。つい、両者は兄弟舟に乗った「票の売買人」かと思ってしまう。

人気取りのカネのバラ撒きも、生活が「火の車」の人々へなら道理ありだが、人気取りだけなら、自民党や「連合」へ国民は「ヤセ蛙負けるな一茶ここにあり」とならないだろう。

岸田首相と玉木国民代表

岸田首相は所信表明で、「経済、経済、経済」と連呼したが、それが人気浮揚の浮き袋になるかどうか。その浮き袋に穴があいている。ある新聞は「所得税を減税し、増収増を還元。物価高を緩和する。その一方、防衛費は法人・所得・たばこ3税

沖縄先島諸島訪問記(その1)

下町の法律事務所弁護士

栗原 周成

10月28日午前11時10分、宮古島に降り立ちました。目に映ったのは、マリンブルーではなくて残念ながら曇天の海です。今回の訪問の目的は、マリンブルーの海を味わうことではありません。

宮古島、石垣島、与那国島の先島諸島を巡り、自衛隊の基地化の現状と、地元住民がそれをどのように受け止めているのか！を自分の目で確認することです。こんなことでがっかりしては、心構えが問われますね。

一行は、名古屋学院大学で憲法と平和学を教えている飯島滋明教授に先導された東京弁護士会期成会の仲間を中心とした19名の弁護士です。期成会は長年、弁護士会の民主化のため奮闘し、一貫して立憲主義・平和憲法を守ること

を目標としてきた団体です。これから訪ね歩いた場所をご紹介します。

が、紙面の関係上、特に記憶に残った場所に絞らせてもらいます。

まず訪ねたのは、宮古島の保良陸自駐屯地弾薬庫です。殆ど人通りのない正門前は、連日の活動で真っ黒に日焼けした下地さんご夫妻、市会議員をしているその娘の茜さんら地元の皆さんが、幟旗

を掲げて抗議行動を続けています。

下地さんは、この弾薬庫の最大の問題点はミサイルを収納する弾薬庫から200mほどの地点に保良集落が存在していることと力説します。自衛隊の教科書では、ミサイル火災の際は2分で1km逃げる必要があるとされています。

弾薬庫が被爆すれば、保良集落にお住いの下地さん一家含め集落の皆さんも逃げ遅れて殺される危険が濃厚です。

下地さんは、「島々を戦場にさせない」との一念で運動を続けていますが、集落の皆さんの中には駐屯地が着々と整備されていく中で半ばあきらめ、沈黙をしたままになっていく方も多いと話されました。

下地さん一家の益々のご健闘をお祈りして、次の千代田の陸上自衛隊宮古島駐屯地に向かいました。

この駐屯地は、地元で運動を続けている清水さんが案内してくれました。この駐屯地は、その中心部に何と「御嶽」を囲い込んでいます。御嶽は、神が存在するは来



保良弾薬庫正門前にて



宮古島駐屯地内の御嶽

訪する場所で、祖先神を祀る場所です。

写真で見えていただけはお分かりのとおり、これでは信仰の場としての御嶽が本来の機能を果たせません。何故駐屯地はこんなものを抱え込んでいるのでしょうか？御嶽は、無理押しして駐屯地を造った象徴とも思えてきます。

今年の4月、陸自宮古島駐屯地から飛び立ったヘリコプターが宮古島沖での墜落死亡事故を起こしたのは皆さんの記憶にもあると思います。地元では、神の祟りだと囁かれています。

この駐屯地には中距離地对空誘導弾部隊、地对艦誘導弾部隊が配置されており、これら誘導弾(ミサイル)の移動式発射装置も配備されている

筈です。残念ながら目視できず、駐屯地の物々しさを味わうことはできませんでした。この基地は先島諸島最大規模の駐屯地と位置づけられています。牙をむくことのないよう祈らざるを得ません。

この日は夕刻、石垣島へ移動し、市内の居酒屋で懇親会となりました。この場に石垣島選挙区選出の次呂久成崇沖縄県議が参加して現況報告をしてくれました。

周囲が騒々しい居酒屋での報告でしたので、聴き取れなかったお話が多かったのが残念でした。それでも、「石垣、宮古など先島諸島の住民がこれまで辺野古基地問題に今一つ関心を持ってくれなかったが、先島諸島の基地化が進められるようになって、ようやく辺野古にも目を向けるようになってくれた」とのお話が耳に残りました。

関東大震災百年追悼映画

「福田村」事件に思いつくと

グラデーシヨンの中で物事を捉える

東 郁夫

朝鮮人だったら
殺してもええんか

朝鮮人だと言いがかりをつけられた行商団のリーダーが言い放ったセリフだ。森達也監督作品・映画「福田村事件」での一場面である。福田村事件とは1923年9月6日に発生した殺人事件である。千葉県東葛飾郡福田村に香川県からやってきた葉の行商団一行が朝鮮人と間違われて村人たちや自警団らによって殺害された。15人いた行商団のうち9人が殺害され、6人が生き延びた。行商団一行が本場に朝鮮人なのかどうか事実確認がなされないまま興奮した自警団たちによって犯行が行われた。関東大震災後の混乱の中で起きてしまった悲劇である。

私はこの映画を鑑賞して事件の現場に居合わせているよ

うな感覚を覚えた。悔しさと悲しみで胸がいつぱいになった。私の両親は韓国人で、私自身、韓国で生を受け10歳の時に日本に移住した。他人事



福田村事件映画ポスター

ではないように思われて涙腺が緩んだ。

差別や偏見はどうして生まれるのだろうか。私が高校生の頃、体育の授業でフットサルをした時、周りのクラスメー

トから「日韓戦だ」と揶揄された。それだけでなく、「韓国人はニンニク臭い。俺の母さんが言った。だからお前も臭い」と心ないことを言われたこともある。命の危険を感じるほどではないが福田村事件と高校生のころの体験が重なって見えた。日本にかつて存在した朝鮮人蔑視の問題だけではない。福田村事件は部落差別の意識もまた問題の背景として存在している。現代社会においてもヘイトスピー

チ問題やSNSでの誹謗中傷で芸能人が自殺をする事件も起きている。根底にあるのは自分とは異なるものや自分の価値基準から外れている人を徹底的に叩く人間の深層心

理、そして差別や偏見という歪んだ物の見方にあることは間違いない。戦時下という特殊な環境の下では誰もが被害者にも加害者にもなりえただろう。1人の人間ではどうにもならない巨大な流れに飲み込まれてしまう。

けれども似たようなことが現代社会においても起こっている。100年経った現在において根本的な構造はさほど変わっていないのではないか。

同じような悲劇を繰り返さないために私ができることは

なんだろう。まずはできるだけ感情を排して歴史を冷静に見つめグラデーシヨンの物事を捉えることだと考える。物事には必ず正しい面、誤った面がある。多面的かつ多角的だ。完全な善や完全な悪としてではなくどちらかといえば良い、どちらかといえば悪い、どちらかといえば左寄り、どちらかといえば右寄りという風に微妙なグラデーシヨンの中で物事を捉えたい。それは自分の視点にこだわるのではなく他者の視点を取り入れてより多くの判断材料を用いるということだ。次に私ができることは当事者意識を持つこ

とである。福田村事件において一般の村人たちも犯行に加担したという。誰もがコントロールできない混乱であったに違いない。重要な事実も犯行に及んだ人たちが特別な人間ではないということだ。私もその現場に居合わせて当時のように正しい情報が分らない状況であれば同じようなことをするかもしれない。そういった危機感と当事者意識を持つことによって社会問題や歴史をより身近なものとして考えることが大切だ。

2023年は関東大震災発生から100年の年だ。関東大震災の後、様々なデマが流れて約6000人の朝鮮人と約8000人の中国人が虐殺されたという。犠牲になった方々に哀悼の意を示したい。残念なことには犠牲になった方々の名簿はなく政府による謝罪や補償は充分に行われていない現状である。次の100年に向けて同様なことが起こらないようにすることが今を生きる私たちの使命である。記憶が風化しないようにすることが大切だ。私は私ができることを見つけて実行していきたい。

中国からの投稿

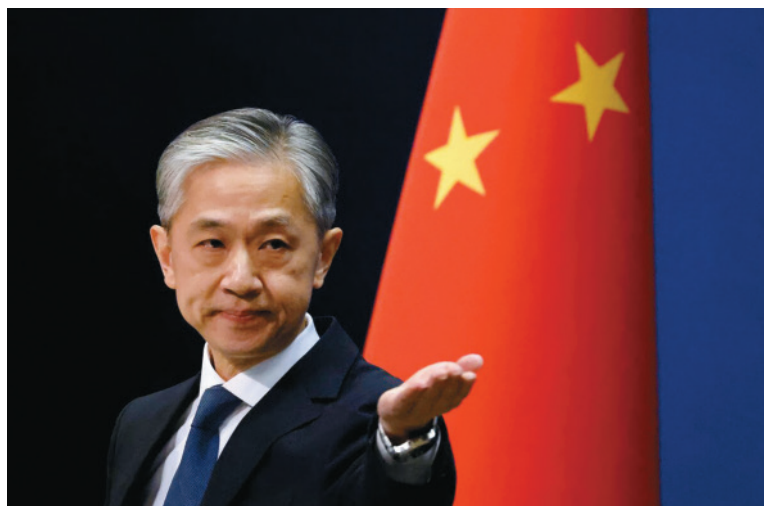
「海洋汚染」から考えた

中国 河北省 (ペンネーム) 黄華雲

排出への
中国内の反応

今年8月末、日本の福島発電所が処理水を海へ排出するとともに、中国国営メディア

私は中国人の代弁者でもないが、少なくとも日本社会や文化などすこし理解している中国人で、一部の中国人との考え方は同じと思う。



中国政府は日本の核汚染処理水の放出に反対を唱える

は社会メディアにもかかわらず、いろいろ情報を中国民衆に流した。真実を交えた情報にデマを加え、同時にそれに基づいた憶測など、限られた情報しか見られない環境に置かれていて一般人は、恐怖や怒りなどが生まれることは正常の反応だと思う。真実と憶測を交えた莫大な情報の背後の権力は意図的に大衆の感情を操り、本来きれいな海に人類が減びそうなものを勝手に放出したと、大衆の一部を完

く思う傾向があり、それに反するものが悪と思っている。私の身近な人も6割ほどが日本政府が極めて悪い行動をしたと認識している。私もある程度、事実を説明しようとする試みだが、相手はほぼ論理的にも考えず聞こうともせず、完全に日本政府を悪者扱いした。本人は性格や根が悪い人ではない。ただ一筋の思い込みで、単純でかわいそうと私は残念でしかなかった。2割ほどの人は疑心をもったまま

全に信じさせている。その反面、中国核発電所の放出データが、すでにネットや新聞などから公には見えなくなっている。それを知らず、一方的情報しか受けられない一部の大衆は予想通り操られ、日本に対して激しい言動を発していた。

黙り込んでいる。本人の思考回路を確かめたが、詳しくわからないから、政府が発表していることだから間違いないだろうという。残り一部の人は実情がわかっていて、自分の本音を他人に言うてしまうとスパイや売国奴と罵倒されるので恐れて黙っていた。10月の長期休暇を利用して日本に旅行する人の大半がそう思っていただろう。堂々と本音を言えないのも私も含めてある種、可哀そうで残念と思う。

私の個人意見

「根回しも必要だった」

私の個人意見として、日本政府が核廃水を海へ排出したことはよくないと思う。ただ全世界が認めている基準に基づき実行しているのだから、それは仕方ない。だが、中国や韓国などの国、反発が起きそうな国に対して根回しや事前説明とかもつとあった方が、今起きている騒ぎが多少減るのではないだろうか？現に日本の国民の一部にもそれに反対する人がいるのではないだろうか？善悪を判断するのがその本

人の常識や所見、一定の環境要素によるが、もしその判断要素が正しくない、もしくは偏った先入観と、作られた情報しか入っていないのであれば、本当の意味での善悪も善悪ではなくなると思う。

先入観や立場、それと過去の歴史問題など両国の国民に超えにくい溝ができていて、それを解消するのは難しいと思うが、だからこそお互いの莫大な努力と時間をかけることが必要だと私は強く思う。現在、現代化いわゆる科学は高速的に進化するにつれ、全世界一体融合化が加速している。同時に思想や考え方の同一化が要求されていると思う。だが、思想や信仰、カルト信条がその差異化もしくは衝突を強く阻害している。その現象として全世界各地に紛争が起きている。権力者が既得権益を守るため、膨らんで歪んだ救世主気分で大衆を利用し、自分の行為を正当化しようとしている。今後、おそらくさまざまな状況が起これると思う。それに抵抗するために、理解しあいながら平和を保つのもそれぞれの義務ではないだろうか。

筆者は普通の中国人ですが日本に留学経験があるので日本語で投稿していただいた。圧力があるやも知れないのに筆名で個人の意見を率直に書いていただいたことに敬意を表します。インバウンド・貿易・文化・スポーツ交流を増進して互いの理解を深めたい。

福井県恐竜博物館を訪ねて 48億年前の地球の姿

三田 栄考

地球の誕生は48億年前、それ以前は？そうビッグバンで137億年前に宇宙が生まれた。じゃそれ以前に時間と空間はなかったのか？恐竜は2億3千万年前に現れ1億6千万年も栄えた。人類が出現して1億年も経たないのに滅亡の危機とも言われているから、人は恐竜より愚かな生き物かも知れない。6万5千年前にネアンデル

タール人によって描かれたスペインの洞窟壁画が人類最古と言われる。私は（そして我々は）近年まで、想いを巡らせられるのは奈良時代まで、時おり埴輪や

弥生時代に接する程度だった。その私は、本誌に寄稿いただいた川名英之氏や伊藤俊洋氏、馬淵清資氏らに啓発されて、宇宙や人類以前の地球



恐竜

にも思いを馳せることを学んだ。そして、私の脳裏には、授業で教授が語った言葉『生物学者にとって数万年とは短く一瞬の間である』があった。9月のある日曜日、館内は多くの小学生の家族連れでごった返していた。建物や展示にも色んな工夫があり、ここかしこで子供達の歓声や驚嘆の音が聞かれた。もとより

困難なのはよくわかる。子供らにとっては、単に大きな怪物という興味に尽きるのだろうが、その時代の背景や地球の歴史などにも関心を持たせられるように望みたい。今の時代と2億年前の地球とがどう違うかを頭に描かせてもらいたい。恐らくは地球上は植物で覆われていたが、恐竜は極く少なく滅多にお目にかかれなかっただろう。更に20億年前の地球は火山が各所で噴火し静寂な死の世界だったのではないか？そしてやっと海中に突然変異(?)で魚が現れた。それが何億年かの間に奇跡的に地上にも生きられるようになった。とても情景を描いたり、画面で紹介するほどの代物ではあるまい。そう、月や火星の世界を思い起こせば分かりやすいだろう。

人類の知恵・能力なんぞ たかがしれている

恐竜博物館に来る人には生物の存在しない地球、植物だけの陸上、それに有史以前の人類にも興味を持ち、生物の進化を学んでほしい。同時に近世百年の人類の進歩はその前の千年の発展に匹敵すると

学んでもらいたい。また、1万年前の人は猿の生活と大差がなかったと理解できるだろう。更に今後の百年の科学の進歩に我々人間はついて行けるのかどうか？私は恐竜を我々と無縁とは捉ええない。同じ生物、動物だ。驚くことに宇宙の星の数は、100億個の銀河がそれぞれ100億個以上の星を含んでいるそうだから、星の数は気が遠くなる、いや、気絶してしまう程の数である。しかし、人類が生物を確認できた星はまだない。それどころか、地球と同じ水や空気がある星も確認できていない。尤も、空気や水を必要としない生物も生存するかも知れない。それはともかく、人類どころか、恐竜ほどの知能をもった生物のいる星も見つけられない。生物が存在することも奇跡だが、こんなに頭の良い人類が繁栄するのは奇跡どころの話ではない。40億年前の地球を我々は想像できない。植物の種類は動物より遥かに多く、何百年も生きる種もある。が、自らの意思もなく動くこともでき

ない。動物が植物を支配しているようだが動物は植物がなくては生きていけない。そう言えば地球上の生物は火の塊の太陽によって生かされている。我々生物が生きているのに適度な温度を与えられている、いや、適度な距離に置かれているのだ。神様の仕業だろうか？地球の内部深くは、まだ1400度のマグマが活発に動いているという。48億年かけて冷えて来たのかな？また気まぐれに地層の大変動が起こり人類が死滅させられるかも知れない。こんなに快適な環境は仏様が用意してくれたのだろうか？素人の私がこれ以上考えると頭が変になるのでこの辺にしておこう。



恐竜館。

福井県立恐竜博物館：2000年開館、世界三大恐竜博物館の一つ。うなりをあげる2体の恐竜像がJR福井駅前で人々を迎えるが、博物館は駅から遠く越前鉄道で終点の勝山駅へ1時間、更にバスで15分。50体もの恐竜の全身骨格や化石、ジオラマ、復元模型など数多く展示されている。

「食」を考えれば 健康、安保、環境が見える

東京 江東区 岡山 昉生^{あきお}

日本国内で暮らしていると、普段、多くの人は、「食が持つ意味」についてあまり深く考えることはないようです。

日本、それも過疎地以外で暮らしている限り、スーパーの食材売り場には、多くの食材が溢れ、町にはありとあらゆる飲食店があるので、それも無理からぬことでしょう。

しかし、健康を害した時、突然、医師から「食の重要性」「食が持つ意味」について指摘され、あわてて自分の日常の「食の在り方」と向き合うといった経験をされた方が多いのも、否定できない現実ではないでしょうか。「日常の食生活」について根本から考えるということは、実は自分の健康に目を向ける機会になるといっただけでなく、もっと多くのことを考え、知る機会にもなります。

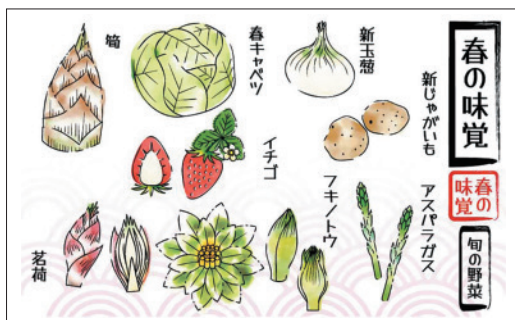
ということ、食につい

て、いくつか重要な要素に触れたいと思います。

(1) 人の健康と食の関係

今現在の「あなた」の身体の状態は、殆ど、「あなた」が生まれてから今日までの食生活の集大成なのですが、言われるまでは殆どの方は実は気づかないし、考えてもいない方が圧倒的多数というのが実状のようです。ですので、この機会に是非、このことをしっかりと考え自覚なさってくださいと思えます。

肥満？瘦せすぎ？どちらもその殆どが「生まれてから今日まで積み重ねてきた、あなたの食生活の結果」です。運動すればいいじゃないか、とおっしゃる方もいらつしやいます。ものごとには正しい順序というものがあります。「正しい食生活」が先、その上での「適度の運動」です。次に、好き嫌いはありませんか？好きなものばかり食べて



春の味覚

いませんか？もう偏食はやめましょう。「多くの食材をバランスよく適量」頂くことが健康でバランスのとれた身体を作り上げることにつながるのですから。

(2) 美味しい料理を食べていますか？

「美味しい」とは、まさに字にある通り、「美（うつく）しい味」です。「不味い」は、字のごとく「味にあらず」です。「美味しい料理」に大切なこと、それも非常に重要なのが、「旬の食材」を使うことです。なかでも農産物、海産物は、美味しくなる時期があります。それが「旬」です。旬の食材は、最も元気で個性がしっかりと出ています。こういった食材

を美味しく、楽しく頂く、これも非常に大切です。

(3) マスメディアの責任

「1円でも安い食材を購入するのが賢い消費者だ！」といった刷り込みを長い間行ってきた日本のマスメディアには、非常に大きな責任があります。「食は命と健康の源」ですから、節約するならば、食材以外で節約するのが「筋」というものです。

日本では、「衣・食・住」という言い方をしますが、正しい順序は「食・住・衣」です。人は誰でも、何も食べないで生きてはいけませんから、一番重要なのは「食」です。そして次は、雨露をしのぎ快適に暮らせる家、つまり「住」が大切です。そして衣料は、最後です。限られたお金の使い方を考えれば、こういう順序になります。身体が健康ではないのに、まず衣服にお金を使うというのは、道理が通りません。しかしマスメディアは今もなお、きちんと考えているのかどうかかわかりませんが、「1円でも安い食材を購入するのが賢い消費者だ」という前提で報道しています。本当に困ったこと

(4) 人口増加と食料生産

ところで地球上の人口が80億人を超えたといわれています。ここでもう一つ、私たちが考えねばならないテーマが発生してきました。人類が様々工夫をこらし、技術開発したとしても、この地球には果たしてどれだけの人口を養う力があるのか、という問題です。

自然農法では、とてもじゃないかもしれませんが、今現在の人口だって養っていけないことは分かっています。そもそも人類は、その答えを見つけれられないほどの生物ではないのかもしれないませんが、やはり答えを見つめる努力を続ける必要があるのだと、私は思っています。

(5) 食料自給率について

日本の食料自給率は、先進国の中では、ほぼ最下位、38%しかありません。これは非常にまずい。食料は「究極の戦略物資」であることを、私たちはしっかりと認識する必要があります。どこの国も、食料生産量が、自国の国民が食べる量より多い時、余った量の食料は輸出します。しかし足りない場合、輸出には回しません。つまり、

食料自給率の低い国は、輸出
国が食料の輸出を止めると、
「食べられる人」と「食べら
れない人」に分かれます。日
本人は、食料が足りなくな
る事態を考えていない。しか
し、戦争が行われている国、
紛争が続く国や地域では、常
に食料援助が行われているこ
とは、報道されています。日
本でも、自然災害が起きた
時、やはり「水や食料」の援
助が直ちに行われます。

兵器を使用する闘いだけが
「戦争」ではありません。「兵
器・武器」を使用しなくて
も、食料輸入国は、輸出国が
輸出を止めるだけで、国民の
多くが「飢え」と向き合うこ
とになります。つまり「兵糧
攻め」です。これこそが「食
料が究極の武器」と言われる
所以です。

「安い輸入食材を購入す
る」という姿勢から、「国産
食材を購入する」という姿勢
へと転換することは、国と国
民の命を守る極めて重要な基
本です。私たち日本国民は、
この国の主権者ですから、自
分の国を守り、私たちが安全
に暮らしてゆくために、食料
自給率が高くなる消費を行う
必要があります。

(6) 農業使用、化学肥料使用に ついて

都会の生活者の中には、食
の安全を確保するために、
「農薬や化学肥料を使うな」
と主張される方が沢山います。
しかし、有機農産物の割合は、
コメだとわずか0・1%でし
かありません。これが何を示
しているのか？結論を言うと、
都会の消費者が「有機農産
物」を購入しないから生産で
きないことを示しています。



私たちの食生活

なぜ有機農産物を購入しな
いのか？理由を聞くと、「高
いから」というのが一番の理
由のようです。「農薬や化学
肥料を使わない」というこ
とが、「人力で雑草や虫と戦
う」ということになります。
当然、そうした生産物は、農
薬や化学肥料を使用した農産
物よりは高価になります。す

でに書きましたが、「命の源
である食の節約は、最後に回
す」、これがあるべき姿です。
「食料生産と地球環境」

次は、食料生産と地球環境
について一言。現在、世界中
で地球環境について、さまざ
まな意見が交わされています。
しかし非常に重要なこと
が忘れられています。「どん
どん地球の環境が悪くなっ
ている、早く止める！」とい
うことなのでしょう。しかし、
今の地球環境は、一体誰に
とって悪い環境になっている
のでしょうか。おそらく「人類
にとって悪い環境になりつつ
ある」ということでしょう。

ならば、地球を「主に人類
にとって悪い環境に」にして
いる原因はどこにあるので
しょう？答えははっきりして
います。地球環境を人類に
とって悪い環境にしている犯
人は「人類」です。

実は、人類が「狩猟・採集」
生活を送っていた時代、つま
り人類が、その他の動物と同
じ「食料取得方法」を行って
いた時代には「地球環境問
題」なんて問題はなかったの
です。その時代は、人類も他
の動物と同じ方法（狩猟・採

集）で、食料を手に入れている
たということ。しかし、
人類が「農耕・牧畜」によっ
て食料の調達をするように
なってから、地球環境問題が
発生しました。つまり、地球
環境に人類が手を加えるよう
になった結果、当然のことと
して地球環境はあがまま
はなくなり、いろいろ問題
が発生した、ということ。
ならば、人類は再び「狩

猟・採集」に戻るのか？考え
るまでもなく、到底できませ
んよね。では、どうしたら良
いのでしょうか？残念なが
ら、未だ答えは見つかって
いないことになっています。マ
スメディアが流すニュース
（「大衆を洗脳する情報」に
惑わされることなく、私たち
一人一人が問題と向き合い、
真剣に考えてゆくしかないで
すよね。

増山麗奈からの報告

UAEアラブ首長国連邦に
移住する予定だった映画監
督、増山麗奈によるドバイで
の3回目の連載が掲載される
予定でしたが、事情により予
定していた会社とは縁を断
ち、一旦ドバイ移住を撤回
いたしました。今後は日本を
ベースに活動をして、海外映
画祭へ挑戦し、国内国外映画
配給の準備も行うと軌道修
正をしました。紆余曲折あり
ましたが、国際文化交流で世
界平和という目標に向かって
悪縁を断ち、良縁を広げてい
きます。平和活動家で海外映
画祭にネットワークを持つ樽
谷大助氏という映画監督と出

会い、四年間かけて取り組ん
でいる映画「歳三の刀」の製
作費の支払いも終えました。

海外への映画プロモ
ーション費用も捻出していた
だけ、ヴェネツィア国際映
画祭、ロシアアムールの秋
映画祭、釜山国際映画祭、
48Hour film projectにも参加
しました。現在日々映画仕上
げの作業に取り組んでいま
す。来年は東京MXテレビ
での番組もスタートし、ま
た、カンヌ映画祭内イベント
も予定しています。ドバイへ
は、体制を整え、再度あらた
めて挑戦をしたいと思ってい
ます。

宇宙生命哲学者大いに語る 第7回

数学という 学問の位置付け

北里環境科学センター名誉顧問 伊藤 俊洋

およそ25万年前に地球上に登場したホモ・サピエンスは、およそ1万年前に文字を發明し、文明を誕生させ、膨大な量の知識を獲得した。この知識は、物理学、化学、生物学、心理学という基幹学問の相互関係に基づき、図に示す学問の階層性という形で表現することができる。この視点に立って、近年、著しく細分化し、また先鋭化している学問領域を、俯瞰的に、また系統的に把握することが重要である。中でも、精神活動も含めた全ての生命現象は、最終的に物理法則で説明される

ということを強調しておきたい。人の精神が関与する領域、例えば文学・数学・音楽、美術、芸術・政治・経済・宗教などは、広義的には心理学に包含される。言葉で事象を表現するのが文学、数の概念で事象を表現するのが数学、音にかかわる芸術が音楽、色や形で心の内面を表現するのが美術といえよう。したがって、数学は、学問の階層性の中では、表現法の一つとして心理学に位置付けられる。

自然科学における数学の貢献

数学は、自然現象の表現法として際立って優れている。文明史上、人類が直面した最も難解な自然現象の一つが、原子の中の電子の挙動である。この自然現象を、20世紀初頭、若き天才物理学者のエルニー・シュレーディンガーが波動方程式を、またウエルナー・ハイゼンベルグが行列力学をと、それぞれが得意とする数学を使って、極微の世界を可視化して見せてくれた。1925年頃に登場した量子力学という学問の誕生である。さらに、1948年にはリチャード・ファインマン

が経路積分という新しい量子化の手法を考案した。これらは、自然科学史上、数学が関わった最大で最高の業績と評価して良いだろう。

数学がノーベル賞の対象にならない理由

ノーベル賞の生みの親であるアルフレッド・ノーベルは、学問的にも非常に視野の広い、

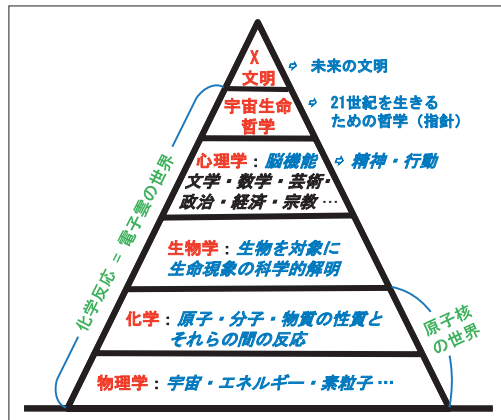
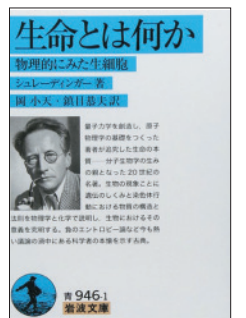


図 学問の階層性

先見性のある科学者であったといえる。その根拠の一つが、ノーベル賞の対象分野である。ノーベル物理学賞は物理学の、化学賞は化学の、生理学・医学賞は生物学の分野に対する賞で、文学賞は心理学の分野を代表しており、さらに平和賞は総ての学問と人間

社会を縦断するいわゆる文明賞と考えると、図に示した学問の階層性と良く対応している。心理学部門には文学・数学・音楽・芸術・政治・経済・宗教など精神活動が主流となる分野が集約されている。ノーベルは、優れた科学者であると同時に、優れた小説家でもあり、また翻訳家でもあった。文学は、ノーベルの身近な活動分野でもあったので、ノーベル賞の対象になったのではないかと思う。数学は、自然科学の分野の表現法として無くてはならない道具である。実際に多くの優れた数学の専門家が、ノーベル物理学賞を受賞しており、化学や生物学の分野でも、数学の力を使わなければまともな議論はできない。文字や言語と共に、数学の範疇に入る概念や定理は、現在の自然科学と人間の社会生活を成り立たせるために必須な要件といえる。当初、ノーベルの構想にはなかった経済学賞は、1969年にスウェーデン国立銀行の提案と出資により追加さ

れたものである。数学には、自然現象を表現する冷徹な側面と、それとは全く別な自由奔放に空想を巡らす世界があり、それは芸術につながる世界でもある。ピカソの「ゲルニカ」や、村上春樹の「IQ84」の評価は一律ではなかったが、作品の中には作者の強い意志が感じられる。数学、芸術、文学といった表現の世界で、革新的な作品は、冷遇され、敵意を持って迎えられることも多い。人類が築いてきた膨大な知識の泉の中に無防備に飛び込むと、その奔流に飲み込まれ溺れてしまう。学問を俯瞰的に理解する階層性という概念の中で、自分の立つ位置を確かめつつ、人生の歩みを進めれば、世の中がどんなに混乱しても、自分の道を見失うことはないだろう。そして、人生の中で、自分が求めている学問を思う存分に味わい尽くせれば、それに優る幸せはない。



シュレディンガー著

*オレオサイエンス第21巻、第1号、(2021) 37頁

*本稿はタウン誌「健康アメニティたのし」vol257、6-7頁に掲載された「ポストコロナ時代の人類の生き方5～数学の超難問(ABC予想)に、1億4千万円の賞金～」を補筆再構成したものである

やったぞ！

阪神リーグ優勝から日本一へ 陰で悲哀をかこつ選手がいる

大阪市中央区 原野 通有

「六甲風にさっそうと」
は古関裕而が昭和11年に作曲した名曲である。戦前に作られて今も応援歌で歌われて我らファンを勇気づけてくれる名曲だ。しかし、この曲の陰で非情に突き落とされ悲哀を味わう選手がいる——今年も10月3日に戦力外通知の8名の支配下登録選手が発表された。ファンもよく知っている2015年のドラフト1位で新人王の高山俊や11年在籍した北條史也内野手もこの通告を受けている。

優勝直後に監督らがダッグアウトの前でグラウンド整備の人達にもハイタッチで慶びを分け合っている微笑ましいシーンがあった。チャンピオンフラッグの周りにユニフォーム姿の63名の晴れやかな姿が揃った。そんなある日コンビニで《サンスポ発行の阪神優勝特集》が目に入ったのでつい買ってしまった。その選手



次回の日本一は何年後？

資本主義世界も強き者を助け、弱き者をくじく社会である。能力次第でレギュラーや勝ち組になれるから公平だとの意見もある。勝ち組の人達もそう宣伝している。私はそうではないと思う。能力と努力は客観的に測定・確認できない。彼らは言うだろう市場価値で決まるのだと。市場の価値・値段は我々が決めているのではない。

勝ち組たる成功者が自分達の立場を強める方向で決めて、造っているのだ。企業のCMは自己宣伝、美化の一例だ。資本主義もプロ野球も一握りの人に富や名声が集中し過ぎている。メディア、ネット、などが発達して現代はより集積・集中しやすい。孫正義やビル・ゲイツのように。知恵と幸運に恵まれた者が過重に成功する。虎党の友人に質問したら「選手の最低年俸？——1500万位？」正解は500万以下が7人もいた。中には5年目で450万円。1000万未満が18名。いや、少年時代からの憧れのプロに入れるなら無俸でも彼らは我慢す

るだろう。だからと言って……。多分10年も在籍できない、将来野球では飯を食えないだろうから労組たる選手会や日本野球機構としてせめて1500万円程は保証すべきだ。さもないと入団したことを悔いするのは。他方移籍してきたエースが3億円、某正捕手は交代補手の2200万円の7倍以上の年俸は多すぎないか？偏り過ぎだ。いや、私は個々の高年俸を問題にしているのではない。野球界以外でも極く一部の實力・能力を過大に優遇する社会の制度の是正が必要だと言いたい。

大リーグの菊池雄星がブルージェイズと3年契約で約42億円で契約したと聞いて全てお金でしか表現できない米国かぶれになりつつある日本を憂うる。大谷翔平のトレード金額が700億円以上と予想される——夢があつて良いですね、と称賛する人がいるのには腹が立つ。同じ人間でこんなに不平等があつてはいけない。ナルホドあれだけの傑出した選手だから、話題性とか色んな収入をチームにもたらすからそれはそれで勘定が合うのかも知れない。しかも彼はCMのモデルなどで副収入もある。人柄も良いから

超々高額に反発する人は少ない。将棋の藤井聡太八冠はあれほどの天才でも収入は意外に少ない。いや、科学の進歩に貢献する学者も貧乏だ。金と富の偏在は為政者の仕組みによる。我々は過重な格差に麻痺し称賛する愚かさを身に付けてしまった。子供達の多くは夢を求めて時間と努力を費やしたあげくに夢破れて去っていく。一般社会では年収200万以下でも已む無く働かざるを得ない人々がいる。それを良いことに低賃金社会を蔓延させている。「弱者を切り捨て、使い捨て」で生きる社会制度を変えねばいけない。企業においてもごく一握りよりも少ない人に成果が集積集中するこの世の中の仕組みが問題ではないでしょうか？彼らが實力で勝ち得るのでなく、社会制度が偏らせているのだ。それを是とする雰囲気勝ち組達がつ作っていると聞きたい。成功者とうでない者との格差が大き過ぎて、不平等だと我々非勝ち組は主張すべきだ。勝ち組の報酬は我々が間接的に負担する社会である。資本主義とは放置すると矛盾が拡大する社会であると知って欲しい。

第22回プロミスエッセイ大賞作品

「恩送り」の約束

新潟県三条市 梅田 純子

私は38年前中国語を学ぶた

めに台湾へ行った。まだ留学生の少ない時代だ。そんな私をいつも気にかけてくれたのがキャンパスで知り合った陳さん夫妻だ。ある日、なぜそんなに親切にしてくれるのかと尋ねると、陳さんは「私も以前、日本に留学していた時、ある老夫婦にお世話になりました。彼らにお礼をと言うと、きまって『いつか日本人の若者に同じようにしてあげてほしい』と言われました。だから、これは私の恩返し、いえ、恩送りの約束なのです」と教えてくれた。

「恩送り」とはなんと素敵な言葉だろう。

陳さんから受けた恩を送るため私は、日本語教師の資格を取ると再び台湾へ渡った。短い間だったが高校生に囲まれながら沢山の思い出と経験

を得た。

それから故郷新潟に戻って、30年が過ぎたある日、一通のエアメールが届いた。「先生を台湾にご招待します。是非いらして下さい。台中商専三年一組卒業生一同」。

教え子たちは皆、貫禄のある大人になっていたが気持ちい昔のままで少しも変わっていません。別れ際に彼らから、心温まるプレゼントを貰った。勿忘草（ワスレナグサ）の花が描かれた白い水筒だ。それを見た途端、当時の出来事がフラッシュバックした。

30年前、この子たちの最後の授業で私は「勿忘草をあなたに」を歌った。生徒たちから歌詞の内容を問われ、「たとえ日本に帰っても絶対にみんなのことを忘れない。みんなも先生のことを忘れないで

欲しい。そういう意味です」と説明すると、一人の生徒が突然立ち上がり、「僕たち絶対に先生のことを忘れません。大人になったら、きっと先生を台湾に招待します」と言ったのだった。他の子たち

ね」と固く約束して、水筒を受け取った。

翌日は高雄へ移動するため、朝早くホテルを出た。南の島、台湾もさすがに冬の朝は寒く、貰ったばかりの水筒に熱々のウーロン茶を詰めて空港へと向かった。



空港の検査場

も赤い目を擦りながら「うん、うん」と頷いていた。あの時のことを覚えていてくれたのだ。突拍子も無いような同窓会には、ちゃんとした理由があった。私の心は震えた。「一生大切にすることから

30年前の約束を守ってくれた彼らとの約束を、私が守らないわけにはいかない。両のこぶしをギュッと握り、勇気を振り絞って、「この場で水筒の中のお茶を飲み干します。それなら文句はな

荷物検査場は長蛇の列だった。ようやく私の番が来てホッとしたのも束の間、思いもよらない事件が起きた。検査官が私の水筒を指さして「液体物は機内を持ち込めません。没収します」と言うのだ。動揺して弱気になった私の脳裏に、生徒たちの顔が浮かんで消えてゆく。

いすよね」と聞くと、嘲るように一言、「プリーズ」と返ってきた。

私は意を決して水筒の蓋を開けた。しかし、熱々のお茶はとて一人で飲み干せるようなものではなかった。

その時、私の後ろにいた青年が、ニユツと手を伸ばし、私から水筒を奪い取った。驚いて振り返ると、彼はニヤツと笑い、お茶をゴクつと一口飲んだのだ。その後ろにいた男性も青年から水筒を受け取り、ゴクリと飲む。

あれよ、あれよという間に、水筒は後ろへ後ろへと手渡され、ゴクリ、ゴクリとリレーされていく。リレーは、六人目の女性のところで止まった。彼女が右手で水筒を高く掲げ、逆さまにして振り、空っぽになったことを示すと、ワーという歓声と大きな拍手が起こった。私は目に涙を溜めて、彼らに「謝謝」と何度もお礼を言った。

私はまた一つ、大きな恩を受け取った。帰国したらこの恩を誰かに送ろうと誓った。こうして連綿と続く恩送りの約束が、今も私の人生の原動力になっている。

推しチームについて

東京品川 大山 桜

前回74号にはMリーグについて書かせていただいたが、実はそのチームごとに色がある。麻雀の中でも守備型、攻撃型、バランス型、面前提（リーチをよくするのでスピードが遅くても攻撃力抜群）、副露型（鳴きをよくして安くてスピードが速い）など同じプロの中でもタイプが分かれる。

そしてこのMリーグ、9チームそれぞれにも色がある。例えば、電通スポンサーの雷電のキャッチフレーズは「雷電の麻雀は。面白いんです！」など。これは選手が上手い麻雀だけに特化せず、見ている人が面白いなと思えるような麻雀を打つことがコンセプトになる。筆者もよく「えっ。その手配鳴かないの!?!その面子崩すの!?!」な



私が推しのパイレーツのメンバー

と思うことは多々ある。私が応援しているパイレーツの特色は「デジタル麻雀」だ。初期メンバーには「黒いデジタル」と呼ばれている石橋伸洋、ネット麻雀天鳳の11代天鳳位の朝倉康心、麻雀はメン

タルゲームといわれるくらいメンタルに左右される競技だが「麻雀サイボーグ」と言われている小林剛。この3人で発足された。翌年には女性選手を取らなくてはいけないという規定の中、取られたのが

ネット麻雀の天鳳においてかなりの成績を残した瑞原明奈。私は明奈ちゃんと呼んでいて、チームの中でも特に好き（推し）だ。女性選手なのにどちらかというと論理的であり、（女性は私含めて感覚的な麻雀打ちが多い）そのあとは朝倉と石橋がチームを脱退。2022年からは最高位戦優勝をした鈴木優（これはプロの中で最高位戦という団体がありその中のトップ）。また麻雀界の中ではトップクラスの實力を持つ仲林圭が入った。パイレーツのデジタル麻雀の特色として、全選手の思考が論理的である。以前私が話した、牌に積まれた思い、その場の流れ（今上がったから次

も上がれそう！逆も然り）、運などを微塵も考えないスタイル。勝つためにどうすればいいのかを分析し、数値化する。そのような特色のあるチームだ。Mリーグ終了後も

個人個人の振り返りがユーザーに上がっていたりする。試合が終わった次の日には路上感想戦などというものがあ、選手1人1人が出た選手の打牌に関してアドバイスなどをする。私がこのチームに魅了されたのは私にないものを持つていたからだ。私はどちらかというと感覚的で論理的に物事を考えることが少ない。そのため、勉強になることが多々ある。また、Mリーグでパイレーツを推してから麻雀の理不尽に体制がある程度ついた。またチームのバランスも良く突出してヒーローみたいな人がいなくても各選手がみんなヒットを打てるようなメンバーになっていて、チームとして応援していても楽しい。他のチームには「この人は苦手だな」という人もいたりするのでその点もチームとして推せる要因である。2019年に1度優秀したパイレーツだが、その

際には麻雀サイボーグの小林剛が初めて感情的になっていくシーンも見られた。

そのあとは惜しくもファインナル行きができておらず低迷している。実力がある4人だけでなくとても悔しい。石橋と朝倉が抜けてからも昨年はセミアイナルで敗退。と今期もチーム解体の危機が迫っている。今期は始まったばかりだが、チームを今まで牽引していた小林の不調があるものの、他3人、特に仲林が個人トップという（長いシーズンではあるが）頼もしさを見せている。去年成績が振るわなかった選手が今季頑張って他を助ける。これも今までの麻雀にはない面白さがある。

ともかくにも毎週水曜を除く平日は熱狂してこのような推し活動をしている。今回は少しマニアックな記事になってしまったが、筆者がこんなにも熱弁するものがあるのはどんなものだろうと思う方はぜひ見てほしい。ちなみに日曜深夜1時から1週間の振り返りをしていくドキュメンタリー熱闘Mリーグも放送しているので見てほしい。

（麻雀）Mリーグをご存じですか？（下）

松平春嶽(下)

橋本左内

東京 阿部 敏夫

越前福井藩主に就任したばかりの春嶽が最初に取り組んだ政治課題が自藩の財政改革。朝のおかずを一品と定め生活にかかる経費を一年間四分の一に減らした。米沢上杉藩が鷹山を藩主に迎えたのが十七歳の時。江戸藩邸の予算を千五百両から二百九両に削減し、儒学者、細井平洲を江戸から迎え藩校「興讓館」を興す。若い藩主の苦難の道は、それぞれ共通して今でも共感を呼び起こす。

春嶽の人材活用の中で最も悲劇的なのが橋本左内。身分によらず人材を登用し人の意見に耳を傾けた春嶽は左内を藩校「明道館」の学監同様に抜擢する。現在の県立藤島高校。地元では今も左内の人気は圧倒的で、春嶽と左内を研究し発表する団体「白鷺舎」がある。

橋下左内は春嶽の意をくんで構想を立てる。資料によれば一橋慶喜(将軍)首相格、松平春嶽、徳川斉昭、大臣級に島津斉彬、伊達宗城、山内容堂、鍋島齊正などの他に優秀な実務家を起用する説得力のある提案だ。全国諸藩から親藩、譜代、外様の別なく起用する全国的統一国家構想である。これで日本の近代国家は成立するはずであった。だが、そうはならなかった。

緒方洪庵の大坂の適塾で勉学に励むのは左内十六歳のとき。同時期に大村益次郎、遅れて福沢諭吉が学んでいる。塾生はオランダ語の文法、文法論を勉強したという。しかしこの時期の各藩若手の活躍は見事だ。西郷隆盛と左内の交流は有名で、西南戦争の時、西郷は左内の手紙を持っていたというのは有名な話。

西郷は七歳年長で、左内二十歳のときが初対面。

安政の大獄

安政五年(1858)幕府の実務ポストに彦根城主・井伊直弼が就任。春嶽の意をくんでの左内の活動が春嶽ともども井伊の糾弾を受けて、左内は26歳の若さで刑死、「安政の大獄」である。いわゆる将軍職の実現にかける南紀派と一橋派の対立だ。この時の左内の論調はデモクラシーのはしりと言われ、身分を問わずに人材を育成し登用することだと論陣を張る。危機意識を強くした井伊は左内を処刑。一橋慶喜を強く推した春嶽はまた、大政奉還を言いつつ、その使命を終える。

それにしても歴史は時間の経過を必要とする。事件の経過は時間の経過で評価される。何が正義で何が誤りなのか。春嶽には春嶽の、井伊には井伊の正義があったのだから。それにしても強烈なりーダーシップが要求される時代に知性的な藩主は、充分にその力を発揮できなかったのが残念でならない。

維新後の新政府では内国事

務総督、民部官知事、民部卿、大蔵卿などを歴任し、「明治」の元号の制定に携わった。だが、家臣だった中根雪江や由利公正(三岡八郎)、酒井十之丞らが政府を去り、横井小楠も暗殺され、春嶽も明治3年に政務を退きその後政治の第一線に就くことはなかった。明治3年から明治12年にかけて『逸事史補』などの文筆活動を行った。明治23年に肺水腫のため小石川の自邸で死去、享年63。

辞世の歌は「なき数によ

しや入るとも 天翔り 御代をまもらむすめ國のため」墓所は東京都品川区の補陀洛山海晏寺。

それでも春嶽は恵まれた方でもある。とにも、かくにも自分の考えを最小限、表現できたのだ。徳川開祖以来、大きな戦禍もなく結果として平和が260年も続いたのである。徳川一門のためだけに配り不必要な内戦を避けてきたのだ。この点はもう少し評価されてもいいのでは。

松平春嶽 関係図

春嶽や福井藩の考えは、「幕府を無くしてしまおう」とか、逆に「将軍中心の幕府政治でこれからやって行くべきだ」というのではなく、朝廷(公家)と幕府(武士)、それに身分が低くても有能な人々を参加させて「ともに国を動かしたり国を豊くしたり、学問や文学が好きな殿様でしたから、春嶽と関係があった人たちの身分や職業はさまざまでした。



写真は福井市立郷土歴史博物館の展示を撮影したものです

風呂にまつわる話

野口 文字

父の会社が木材会社だったので、小学校に上がるまでは社宅住まいだった。古民家風で、家族と叔母（母の妹）の7人で暮らすには十分広い家だった。因みに叔母は、下の姉が生まれる時に上京して家事を手伝



い、父のツテで造船会社の事務職に就いていた。

夕方になると父の掛け声で、兄を除く3人娘が会社の共同浴場に行った。徒歩5分ほどのところにあった。途中で摘み草をしていると父に急かされた。内風呂もあったのに、なぜ会社の風呂に行ったのか、よくわからない。どのような浴場だったか具体的な記憶もない。だが、姉妹で

連れ立っていく道すがらそのものが楽しい思い出。長女の長いお下げ髪を、ブラウスに吊りスカート姿の2人がスキップで追いかけた。日頃は厳しい父も鼻歌を歌ったりしてリラックスしていた。40代半ばだったと思う。

小学校に上がる少し前に同じ町内の新築の家に移り越した。風呂はヒノキ造りのいい香りがした。長方形の浴槽上部の横側に、上がり湯を取り出せる部分が付いていて全てが新鮮だった。当時はガスや電気ではなく、薪で沸かしていた。

普段は姉妹のどちらかと一緒に入浴したが、ひとりが入ったことがある。体の小さい私は、まだ浴槽を跨げなかった。その時、足が滑って頭から真つ逆さまに落ちた。幸い母が傍らで薪をくべながら見守っていたので助かったが、湯船から引き上げたときには顔面蒼白だったそうだ。

以来、入浴時には必ず誰かと入るようになった。ついでに泳ぎが苦手な未だに「かなづち」なもの、この恐怖体験のせいになっている。

余録

前74号への読者から寄せられた感想です。「とても興味深く読んだのが、馬淵教授の『科学技術とエネルギー』でした。救世主の皮を被った破壊神とは、言い得て妙です。いっどこかで戦争ばかりしている人間。ロシアとウクライナ

編集後記

今回もたくさんの方の執筆者に参加いただきました。それぞれの思いが詰まった紙面となり、編集者冥利に尽きます。

とはいえロシア・ウクライナの闘いも持久戦の様相を呈し、新たにパレスチナ・イスラエルの闘いが勃発。やがて世界中が巻き込まれるのではないかと不安、危ういバランスの上に世界の今があることを痛感します。戦争は何も解決しない。殺し合いの果てにあるのは終わることのない憎悪の連鎖です。今こそこれを突破する英知の結集を。ウクライナの戦況に心を寄せ

の戦いがそろそろ終わるか、というタイミングで、イスラエルとハマスが戦争開始したのは、ひとえに、戦争で金儲けする資本家が手引きしているから、と想像します。馬淵教授の記事を読み、日本古来の縄文時代の知恵を紐解いて世界に発信できたら、少しはましな状況になるのでは、とも思いますが、ロシアに停戦を

勧めに行った鈴木宗男議員が、維新の会を離党せざるを得ないようでは、まだまだです。またフォトジャーナリストの山本宗補氏（前74号に寄稿）がこのほど「鎮魂と抗いの12年3・11後の人々」を彩流社から出版されました。東日本大震災後を生きたる福島の人々を追い続けた写真と文章です。オールカラー168ページ。

つつ、パレスチナやイスラエルの人々にも関心を寄せたい▼「理性」と「感性」、馬淵先生の後を追ってこの世のからくりに分け入った気分。理系が苦手な私に爽快感を感じました。私たちはなぜ樹木が配された名勝に心魅かれるのか。感性の機能は理性の上位にあると、自然と人間の関係の深淵に迫る馬淵先生の筆致。AIで話題沸騰の今ですが、そんな肯定できない気分をもつ者として「ガッテン。やっぱり、そうだったんだ」と。「感性と比較すればAIはあまりにも非力で力不足である」。あなたも万能であるかのようなAI像が

語られる。将来、人間社会はAIに乗っ取られるのではないかの頭のモヤモヤが少し緩和されました▼中国現地から「原発処理水」への正直な感想です。かの地の政治の中核にいる官僚であっても突如消息不明。厳しい言論統制を風の噂で聞くこともありま。そんなやりきれない環境の中で率直な感想を送ってくださった黄華雲さんに感謝。中国の人々の心情の一端を知ることができました▼森達也監督作品の「福田村事件」に、二度と悲劇を起こさないための東さんの「微妙なグラデーションの中で物事を捉えたい」の言葉、その通りですね。読者の皆さん、あなたの思いを本誌に寄せてください。

「フェイクニュース」

前参議院議員 森 ゆい

インターネット上で、国会審議の動画などを巧みに切り取り編集したり、全く虚偽の事実を織り交ぜるなどして作ったフェイクニュースを拡散し、執拗に維新を除く野党の国会議員や政権に批判的なメディアを攻撃していたTwitter（現X）の匿名アカウント「Dappi」。10月16日に東京地裁で、「社長の指示のもと、被告会社の業務としておこなわれたものとい



うほかに「い」と、被告であるワンズクエスト

社とその社長に約220万円の支払いと投稿の削除を命じる判決が下された。

会社の業務としてネット工作が行われていたことを裁判所が認定したのである。2年前の参議院本会議代表質問において、私は岸田総理に対して、河井元法務大臣が対立候補を貶めるため業者に委託してネット工作を行ったことが裁判で既に事実認定されてい

ることを指摘し、「Dappi」問題を取り上げ、お金を使ってネット工作を行い世論を捻じ曲げることは民主主義の危機ではないかと追及したが、総理は一般論で答えるだけだった。ワンズクエスト社と自民党の深い関係は既に幾つかのメディアで報道されている。誰からの依頼でこのような業務を行っていたのかということとは必ず明らかにされなければならない。

今、民主主義は大きな挑戦を受けている。「Dappi」問題は深刻だが、それでも人間が一つ一つ行っていたことである。ファクトチェックもまだ不可能ではないと思われる。しかし、世に放たれた新しい技術である生成AI、ChatGPTを悪意を持って使えば、膨大なフェイクニュースを世界に溢れさせることが可能なのではないか。ファクトチェックは追いつかず、フェイクニュースによって世論が形成され、間違った政策へと人々が、為政者が、国が導かれるのではな



孫に祝ってもらった誕生日。生活者の感性を取り戻す

いか。そもそも選挙そのものが公正に行われると言えるのだろうか。

このような危機を直視した上で、新しい技術が人々に幸福をもたらすように、必要なルールを考え立法する責任が国会に課されている。生活苦に喘ぐ国民の窮状をよそに、相次ぐ与党議員等の不祥事やエッフェル塔前のお気楽な視察記念写真は人々の政治不信を増大させている。「国の行く末を本気で考えてくれるような政治家は何人いるのだろうか」という呟きをTwitterで見たが、与野党問わず大多数の議員はそれぞれ真剣に職務を遂行していると思う。しかし、政権の座に長くいれば、それ自体が目的化し、「自分の力ではどうすることもできない不条理から人々を救うこと」が政治の最大の使命であると私は肝に銘じてきたが、そのような感性

が失われていくのかもしれない。臨時国会が始まり、岸田総理はとにかく「経済、経済、経済」と絶叫したが、増税メガネ」とあ

だ名を付けられ支持率下落爆進中の岸田総理に実は少し同情している。「安倍晋三元総理がいなくなっただけから経済が悪くなった」と思っている人々が多くいる」という報道を目にしたが、安倍元総理が日本の経済を良くしたということ自体がフェイクニュースではないのか。今の我が国の苦境は、アベノミクス、異常な金融緩和の深刻な後遺症である超円安の影響が大きいと何故すっかり報道しないのだろうか。また、安倍政権下で日銀の債務が巨額になったことが思い切った財政出動を渋らせ、国を守るための防衛費の増額も結局、安倍元総理がトランプ元大統領と約束した兵器の爆買いに費やされる。ようやく賃上げに焦点が当てられたが、小泉政権で繰り返された年金や医療保険の保険料率引き上げにより現役世代の保険料負担は限界に達してい

る。労使折半の保険料負担上昇が賃上げの足を引っ張る。保険料収入の引き上げを目的に保険料率だけを上げれば、その基になる標準報酬月額を引き上げに逆のインセンティブが働き、企業は賃上げを行わず、まだ社会保険の対象になっただけで非正規労働者に計画的に代替していくという警鐘を何度も鳴らしたが、力不足で顧みられることはなかった。

埼玉県自民党県議団が本会議採決前の法案撤回という前代未聞の醜態を晒した「子どもだけで留守番は虐待条例案」には驚いた。これだけ深刻な少子化が加速度的に進行しているにもかかわらず、子育て家庭の現実が未だに何も分かっていない。「母親が家にいて常に子どもを見るべき」というのは、解散命令を受けた「旧統一教会」や日本会議の思想なのではないかと思ってしまう。自民党は一度下野した方がいい。野党はだらしないなどない。政権を長期化させるために恐らく行われたであろうフェイクニュース拡散によって政権担当能力が無いようにイメージダウンさせられただけなのだから。

編集部より：森ゆうこが質問に立つと委員会室はシーンとして緊張した雰囲気のみならず。彼女の鋭い議論で答弁に立つ者が真剣味を深める。このような場面をまた見たいと思うのは小誌のみであるまい。再起活躍を期待したい。